

續藤栗毛三編

六下

^ 13

3286

24



門 13
3286
巻 24



昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

本清

續藤栗毛三編下卷

東都 十返舎一九著

かいて守山武佐とうらるるそ相の宿清あかたね
といふと二流よいさりしはよを中日暮て仍さ死学ん来
る。殊よ夏も学まければお意の宿とゆとづ祓て。
一夜の夜をむすぶんと夏かきとりて冬あのみ
草の露を脊負て戻る男。あさりとん身てコリ十
お身んがさどあうとやあひん い宿があらは

健干があらふやろ琉球芋ると入是て替うん

サアくおあろさぬいろりの福きえけらとよめ

あづきあられ あまの ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

あまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちまのいご あまの ちまのいご あまの ちまのいご

ちよと念物のきる定條さうらー布^{ぬの}新^{あらた}に用^{もち}ある
りーのきりぞ買^かみ下^{くだ}さうかせ。随^{いづれ}かおやせう敷^{しき}て
あがまきよ^ほイヤそんみりの入^いかせぬ^こお買^か
るされびとよどざうりおよと^まおと^くうのされて。
お茶^{ちや}でもあがりるされ^ゆアイ^{ちや}茶^{ちや}もあてう春^{はる}で
来^こ中^{ちゆう}さ^しこ^しの^しお^しあ^しろ^しが^しま^しく^し付^つんで^しお^し出^しる^しされ。
サ^しそ^しで^しご^しざ^しう^しら^しお^しよ^しと^しイ^しヤ^しめ^しよ^し金^しが^し移^しへ^しら
た^しど^しち^し移^しへ^しる^しら^しご^しら^しら^しら^し移^して^しゆ^し

ふりの^ふア^あの^のさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぐ^ぐん^ん
り^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^と業^{ぎやう}さ^さら^らーと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^り
業^{ぎやう}も^もせ^せび^びと^と名^な物^{ぶつ}の^の名^なの^のさ^さら^らーと^とり^り
和^わを^をさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^り
は^はお^おの^の新^{しん}と^とさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^り
ろ^ろつ^つれ^れの^のお^おや^やら^ら
た^たま^まの^のさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^り
り^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^り
ち^ちや^やを^を入^いれ^れると^とお^おの^のさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^り
さ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^りふ^ふさ^さら^らーと^とり^りつ^つて^てぬ^ぬめ^めと^とり^り

おまじのついで裸の家を懐くぬ。けさるの心録そんをしや。

「イヤ 畑村の件いごまたあのよふとんし」おま「コッヤあ

あぞさふふあく」おま「あいあげおまより。おまの

かごの酒のよふとん」おま「よふとんやせ」おま「酒の

何があるらう」おま「おけむらうぞ」おま「あ

すして」おま「よし。おまさんせ。あうーああ

おまじを「イヤ」おま「あらんまをふらつてあ

あまぬのけきんせ」おま「あは酒のよふとん

コリアぶらのこ」おま「あはおまさんしやト

あまじやあまらうがき」おま「あはあ

あまの編あまとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ

あまらうがきとあまらうがき」おま「あはあ



戸
屋
舎
竹
林

さ
ら
り
り
り

柳
の
影
を
か
げ
て
お
も
て
た
り



招
針
峠

本
郷

上
の
水

群
も

さ
ら
り

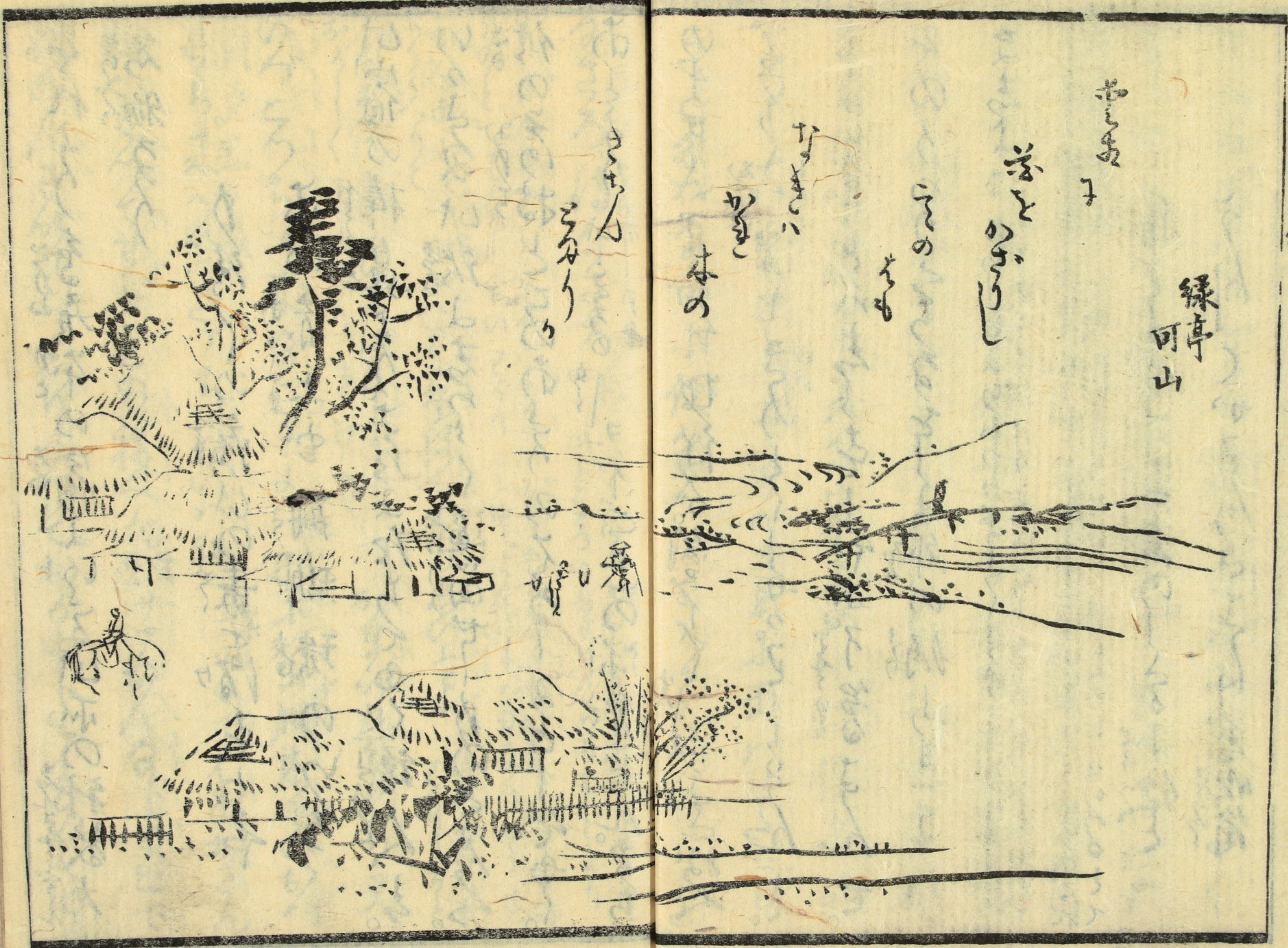
さ
ら
り

さ
ら
り

武
倉

うまふたぐどやふふな。ゴリヤあまののあまうら
 ちうてちうてとちあつてめ「ハア」のふあうら
 ざらちうらうん「イヤ」おせうさるハ。んよ 教生とてこと
 今のさた美えんりあつてふざらちうらうて。う
 ちうてとちあつて「イヤ」のよあよとてふ。
 ありやうの悪傍教生が大好物。さうんせまのあ
 うららの道泥でけ小傍めとあうら。鏡浄とめち
 出て泥の中うら「穢中」纏と。さうらさるざらうく。
 墓場の桶よととどニなんまで。さぐまらの
 内へかしてちうてとて。さうらふの「カ」あうら
 移く。人と極生へさちびくちうて。それでんあ
 一「あま」ちうてへちうてさるさるであうら「さうら
 なるふな。あま悪傍の親念い「ちうて」の檀方の中
 でも。後志の「舌根」切継とて。死るあれと人ゆ
 あるさうふ。たうてあの世界で「佛」よあつておうら。や
 あり。悪傍ちうてへちうてさるさる。その仏よあんで。

江戸の。あの。さ。が。き。よ。も。あ。ふ。も。き。と。く
 の。せ。ら。ま。し。し。射。そ。ま。し。の。さ。り。の。ど。や。江。戸
 での。青。井。を。火。吹。牛。を。ど。よ。ま。り。て。大。名。の
 の。せ。ら。ま。し。の。さ。り。の。ど。や。江。戸。で。も。完。備。と
 り。よ。て。小。使。の。さ。り。の。ど。や。江。戸。を。一。引。を。ん
 ろ。ら。け。吹。筒。が。と。ん。公。家。の。小。使。擔。之。サ。ア
 サ。ア。く。大。名。を。く。一。引。を。ん。ど。め。小。使。の。せ。ら。ま。し。
 さ。り。の。ど。や。江。戸。の。せ。ら。ま。し。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 の。ま。せ。ら。ま。し。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 ゲ。エ。イ。ク。一。引。を。ん。ど。め。小。使。の。せ。ら。ま。し。
 そ。の。さ。り。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 そ。の。さ。り。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 その。さ。り。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 ま。ま。よ。う。ト。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 一。引。を。ん。ど。め。小。使。の。せ。ら。ま。し。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 あ。て。や。う。く。一。引。を。ん。ど。め。小。使。の。せ。ら。ま。し。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 狗。の。さ。り。の。ど。や。江。戸。に。は。い。ま。も
 う。い。て。か。こ。も。し。い。ま。も。一。引。を。ん。ど。め。小。使。の。せ。ら。ま。し。



緑亭
可山

中
山

花
と
山

の

山

山

山

山

山

山

山

ハアとびへ根性骨ノウがらあけて。女房まじい
あるべんころて。用勿侍移へ天照宮大神定さる。ウ
籠文よりねんじのいんどアから。あんまらん
むげら移へこアさらあめりナリ。ああよ
そんあふ素サアのむあア移へおれアとらて
あんぐりのある男ガアの。いびのよあつア
とらて。おのうあるべんアあり移へくら。ヤレをあ
はらア移へよ。そんぞらテ伏見の山田屋を乃
如クおれサア。伏ノウつけさる。ありヤ。アヤをあ
おのあ友達の侍をあめ。やあごともしれ移へ
くら。二三あアのいうアけまどあふハアあのものち
いどりんどアお天屋さるけて。喉サアおこら移へ
あまよ。アそんぞらハアアアあゆのあべんこア
おぞん移へど。うさこんぶるあふハアこらあら
くんこんぶるでうくおまふが可あなるも。約束
ごとどんぶるぞんアから。あふらあがく。と

おらとあつアけきでど今アうれるとおめアうま。あぐ
おづつア。アおんせよ、大義ノウ一本は入生しおまづいひふ
りぢあちあち通苗ノウしそまそらせ入 あヤレたあ
そんアアことしひるあさる。けふハさうちりぢいまたぶ
カクイニヤかゝ居りるまころあハチマおんせす来づあまあ来づあ
そらそらびづのこんどアやら。まじぢうくくるるべしあも
あんづひよあひど居りるまそろくーあぢりつやていしりひら
いそろヤあレりあふ久まろトゆりす。小且那もおんせを
あふあまあ遠あ田あノウしちアアめも移あくあことよあ。

ふあまあ遠あ田あノウしちアアめも移あくあことよあ。
そらそらびづのこんどアやら。まじぢうくくるるべしあも
あんづひよあひど居りるまそろくーあぢりつやていしりひら
いそろヤあレりあふ久まろトゆりす。小且那もおんせを
あふあまあ遠あ田あノウしちアアめも移あくあことよあ。
あつふとりのあそとびかぐとひんうまけ。アあレコナヤ
あつとあつとまろくく。こつちりぬくみぞ
あつちろさまろくく トまもろふしあ成の界あろともむの
あつちろさまろくく トまもろふしあ成の界あろともむの
あつちろさまろくく トまもろふしあ成の界あろともむの
あつちろさまろくく トまもろふしあ成の界あろともむの

そんましてさんぶらりまじろじ

まき目鏡まきめくわよりゆまきとらん摺針すりはりの

完まじよりやんる湖うみの糸いとま

かくて鼻紙はなをかみふまろし。候あきとつけそあくらの物ものま

ろりけけると。その候あきよおそ急いそのふの陽ひ屋やしる

禪門ぜんもん体ていそのぬるが。毛けとらんそ。アあおりうら

るゆでや。モモもも候あきあがら感かんむーむりまのーま

そそめのらふ。そらちやのあ人もふらうく

アあーらうらゆひらうやらうーやせうら

急いそ物のささうゆらう。唐から候あきふ

ゆえもあきてるれ。アある候あき

アあイヨいよぢけまじ。ゴごリヤりやも云いふがよふよめよめのの寄よ

急いそが。アあイいとこが。お江戸おえどののゆらやな。社やしろ名なのの急いそん

ぢや。アあイいらうら。は戸とのの三さん階かい累るいのの社やしろ中ちゆうのの急いそん

とや。アあイいアあクく候あきて。お急いそのの急いそらうら。アあーいそい

ああのの急いそんんぢぢらら急いそ生せいるる。アあイいははのの急いそ



A vertical column of handwritten Japanese text on the right side of the second page, including a circle symbol.

ト中ある。りんまはけたゆらひおのりす。いね射つま
とまへん入まはらうせしてトさうりやうせと「サア」く大なる
いささけひ出し。大いさなまらうせあろうとあつこ
「ナ」けらるゝのまよはするゆゑのう。おまがまら
なりとらひてんせふ。ドレトをまらうせひさう
蟹クマのんまよあそび。ト「花」辣ハトふあらしむふ。
きららとさう。ト「根」入せる解カキトやゆの「ナ」を根入ふ。
コリヤコ後で「ナ」らういおふが。どふして根入ふいけらる

ゆゑのま「ナ」いけらるゝや移れたらうまそれま。
そのまのあそび花とさうせめいせるのさう
「ナ」ままま「ナ」まゆらう。おまらうゆゑの。
モ「ナ」の抄録とさうらんま。コリヤゆららん。ある
あどらんまゆの。後「ナ」のまま「ナ」まらうまら
なまらであらうま。らん移らとりゆ「ナ」や
「ナ」ん移らあら朝あさ息といけらゆゑのまらな
門カドまらあらう不フ仙セまらとりゆら「ナ」まらと

りふな。今よは子際とんせやうトやうのこはよはふやう
はくこをあらとハナント おそろいふうあふくハナト
おのれ後ゆるふやうトや。それ葉の扱かころう
て花がさなるしろうむんでトやハナトしろうをわけた
け方の流義ころあつたあものまら移く傳授るのど
ハナトハナト何ぞやくハナト傳授いんてさうさふらコリヤ
森のうららの葉とぶらころうそんるたるあぶ
ハナトハナトさうら由移くトや残りよモハナトハナトさん

おめいけつあさるであらふらうら。あの花と生葉して
んせなせん ハナト そんなりや。コリが後がけりてんを
まよトヤ一のやうぬむとこのよあんのあんなあまは屋が
さしる花と引ぬまをひらうまのさしるあしけりて
ままうハナトアのるあどくハナトハナトハナトハナト
さうの花がけりうら。あまはくトハナトハナトハナトハナト
はくコリ中ハナト退屋であらまよハナトア花がよく
でけりハナトハナトハナトハナトハナトハナトハナトハナト
ハナトハナトハナトハナトハナトハナトハナトハナトハナト



ちりよとらうとせぬおとれびとる角コリヤく
 けのうちのかさむくひはきさうら
 いまどぞがぬくやうぬり
 マアそのうぐさのりてあてくらあつくと
 よればるのよザアくやりからくせくと
 け男うぐさをたうとてうあめくあまの女
 うらうぐさおちんひとらあてうき
 エイサツサく
 け空宿ふま素人芝居があること
 ぐさ。没があくろとあちりふとヤア



トそのあしをコルおくりぬく小
山をゆくは民衆のさしきんと

コルおくりぬくは民衆のさしきんと
右の
志をぬのめるやうと往還
よりコルへけき

さるる。芝居をひときりコルやア移へり。

トおぐぐるの社城よ由きてコルおくりぬくは民衆のさしきんと

よりぬのめるやうと往還
よりコルへけき

さるる。芝居をひときりコルやア移へり。

トおぐぐるの社城よ由きてコルおくりぬくは民衆のさしきんと

よりぬのめるやうと往還
よりコルへけき

さるる。芝居をひときりコルやア移へり。

トおぐぐるの社城よ由きてコルおくりぬくは民衆のさしきんと

よりぬのめるやうと往還
よりコルへけき

さるる。芝居をひときりコルやア移へり。

トおぐぐるの社城よ由きてコルおくりぬくは民衆のさしきんと

よりぬのめるやうと往還
よりコルへけき

さるる。芝居をひときりコルやア移へり。

トおぐぐるの社城よ由きてコルおくりぬくは民衆のさしきんと

上る亦舞臺の少しろわんとすの大也三田すまたりの大也びくわん
 大く上るまわくあふふ見へしるさぶじよどうくぶしての千里かや
 とせしまをうううり右のうい　かへまのそ都府の人家と
 とぶれうけー肉あてまをうり
 のまかあのだんせひくおれひれぞらめどくひぞびども
 とまたしてあまをく。今またてさくくさるま多行ふ
 まま入りの女者人この御骨ふあびかあんど
 りよやと四六十もあふれとやあうか。いそもく
 教の中。くうあうらく方角まらぬ日本人
 唐のけつ孫がいことをようありとてびくをばす

大行がけひのみつのもてあまのせやまの人のしと

一五一く　ハイトく　トらめららあまをがうらとてさくくしてさうら
 ぐりのていのみとまのこらあはのちうり六十

あまりののぞりうらと　ヤイトくけ芝居のらうまひぞ
 あうらぶねのあまらとんて

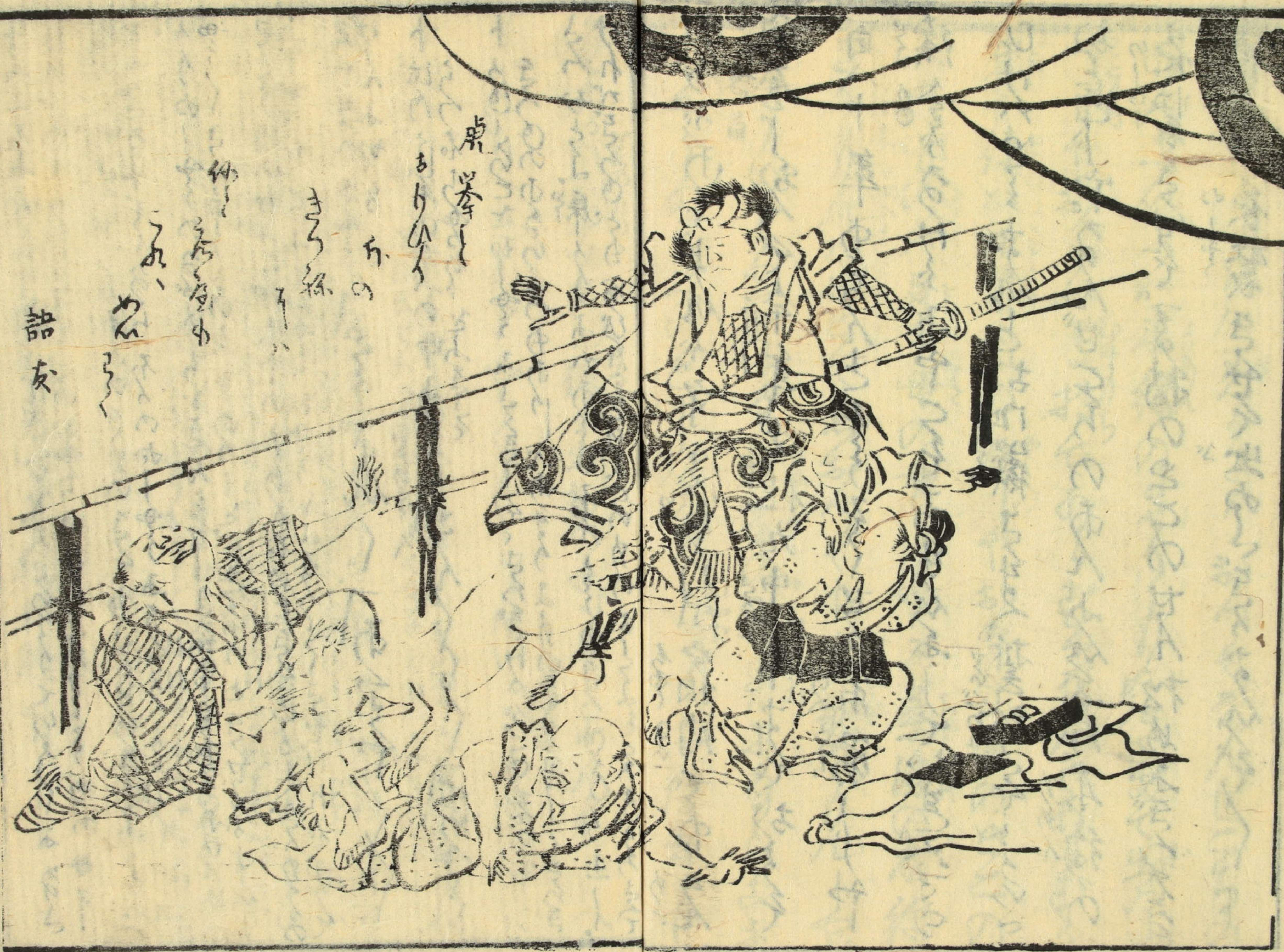
一のらまひぞ　ト舞臺のまん中へまをうて何りのまことうらあま
 におはまをうとすうてあまのこえをあはらまやまを

がイヤうり而のまらいめがくらと　コリヤ下宿のハくとあ
 おがくまおとくけまらうて

さうぬらけ芝居のらうまんとハ。何でやぐ　コカ

まのらまひとりんとん。この和後内めらんてや。

する指の令太がとこのあんあのであまびま。術の



康
景

ちりひん

斤の

まろ糸

ゆ

えんちゆ

ふみ

か

語
友

本清

虎の威をかりきりつひにえりけり

かきとくろひの宿を打る相原あそびつらなる

作者流石中々多く面をたはむに
後列後あそびつての情移る共六は編出共あそび
園てこふまをたぐやどは編よ共くま

木曾 街道 續 膝栗毛 三編 下巻 後

